日刊水産経済新聞

水産庁長官による第18松友丸感謝状授与を伝える記事

第18松友丸に感謝状

PNG遭難者5人救助で

橋本漁労長「当然のことをしたまで」

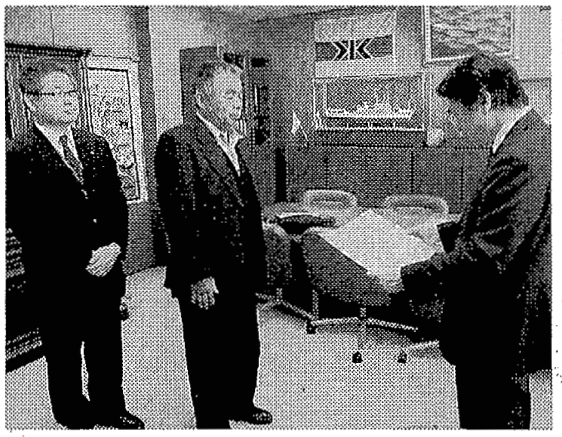
㈱いちまる所属の海巻船・18松友丸が、操業中にパプアニューギニア（PNG）5人の遭難者を救助したことで、水産庁の町田勝弘長官は3月12日、同船乗組員に対し感謝状を贈呈した。

昨年12月14日にPNG海域で同船が操業中、船外機付FRP船で漂流する5人のPNG遭難者を発見し、同船に救助したもの。遭難者の中には女性も含まれていたという。

この日、感謝状を受け取った同船の橋本正悟漁労長によると、遭難船はコンパスが壊れ帰路を見失ううちに燃料が切れたという。「魚群を探している時に発見した。聞いたところ1か月間ほど漂流し、ほかの船から食料などはもらっていたようだが、救助までには至っていなかったようだ。救助すると操業にとってはロスになるが、（救助は）当然のことをしたまでのこと」と、照れ笑いを浮かべた。

漁労長に同行したいちまるの松村吉樹常務は「効率や効果だけを追い求めず、当たり前のことをコツコツとしていく社風が船の救助行為につながった。心から誇らしく思う」と、胸を張っていた。

感謝状を手渡した町田長官は「貴重な人命が救われただけでなく、日本とPNGとの絆（きずな）が深められ、日本漁船の信頼の醸成に大きく貢献した」とたたえた。



町田長官㊨から感謝状を受ける橋本漁労長（中央）。㊧は同席した松村常務